

# 平成27年度 第1回 大阪府医療勤務環境改善支援センター研修会

日時：平成27年7月13日(月) 14:00～16:20

場所：大阪府医師会会館 2階ホール

参加人数：281名(理事長・院長、事務長、看護部長、技師長等  
155病院から参加)

開 会 (14:00～)

司会 大阪府医療勤務環境改善支援センター 事務局長  
(一般社団法人大阪府私立病院協会 事務局長) 竹内 博

1. 開会挨拶 大阪府健康医療部 部長 上家 和子  
一般社団法人大阪府私立病院協会 会長 生野 弘道

2. 講演 テーマ：「医療機関の働きやすい環境づくりに向けた取り組みについて」～改正医療法の勤務環境改善システム～  
講 師：東京海上日動火災保険株式会社  
前厚生労働省医政局・労働基準局 医療労働企画官  
中野 孝浩氏

講演内容 ①改正医療法の仕組みの概略 背景と経緯

I 医療をめぐる状況

…少子高齢化(人口減少局面)

医療ニーズの多様化

診療科や地域による「偏在」など、医療スタッフの確保が困難

II 医療をめぐる状況

…入院、救急患者への対応など心身の緊張を伴う長時間労働

当直、夜勤、交代制勤務など厳しい勤務環境

②「支援センターによる支援」

I 医療従事者の勤務環境改善の促進

II 医療勤務環境改善支援センターの「ワンストップ性」と「ハブ機能」

③「医療機関による改善の取組」

I 勤務環境改善マネジメントシステム導入の手引き(改訂版)

II 4つの領域における取組メニュー

III いきいき働く医療機関サポートWeb(通称「いきサポ」)

④終わりに

医療勤務環境改善の意義

講演所感 ・医療勤務環境支援センターの設立経緯と意義を、わかりやすく説明していただいた。  
・大阪府と私立病院協会が運営するユニークな仕掛けの当支援センターで、全国的にも例を見ない事業取組ができると期待をこめてエールを送られた。

3. 事例報告 テーマ：「中規模病院における医療勤務環境改善取組事例」

①講 師：社会医療法人ペガサス 馬場記念病院

総論 理事・企画運営局局长 田中 恭子氏

馬場記念病院の概要

従来の体制に組織横断的体制を追加

新人看護師の離職率の大幅改善(平成17年度33%から平成24年度0%へ)

②講 師：ペガサスシニアスーパーバイザー 検査部技師長 魚野 弘子氏

勤務環境改善事例

ペガサスメンター制度

職員ポスト

メンタルヘルスケア

③講 師：ペガサス法人部 職員サポートセンター センター長 畑 宏一氏

職員サポートセンターの設置

人事課・庶務課・厚生課の3部署を統合集約し、健康保険組合をプラス

職員からの様々な相談に対応

相談窓口の一本化とワンストップサービス

人事考課制度の活用  
健康保険組合について

④講 師：看護部長 正本 恵子氏  
看護職の「ワーク・ライフ・バランス」  
産前産後、育児休業、短時間制度  
育児支援  
ペガサスキッズルーム(子育て支援)  
潜在看護師復職支援研修  
看護師キャリアアップ支援…院内認定看護師制度  
院内留学制度

講演所感 ・中規模病院としては素晴らしい勤務環境改善の取組実績を残している馬場記念病院から、4つの部門長がそれぞれ具体的な取組内容を例示しながら説明していただき、たいへん理解しやすかった。  
・設備投資を含む取組から、費用をかけずに柔軟な組織対応で取組できる事例まで幅広く紹介していただいただけ参考になった。

4. その他(質疑等)

5. 閉会挨拶 大阪府医療勤務環境改善  
支援センター センター長

馬場 武彦

6. 閉 会 (16:20)

記：吉村 孝仁(センター相談員)



開会挨拶 上家 和子 部長

生野会長あいさつ

今年の1月、大阪府から「医療勤務環境改善支援センター」を委託されました「私立病院協会」の会長を務めております生野でございます。いつも、私立病院協会の事業活動にご協力ありがとうございます。本日も、医療機関の勤務環境改善の研修会を開催させていただきましたところ、お忙しいにも関わらず、また大変蒸し暑い中、このように多くの方々にお集まりいただき感謝申し上げます。

医療機関の“勤務環境”は、他の産業に比べ決して良くありません。自分の仕事が終わり帰ろうとするとき、高熱の赤ちゃんを抱いたお母さんが救急車で運ばれたりします。仲間が急病になれば、勤務変更は当たり前となっています。当直の時は救急車のサイレンで興奮、心身とも疲れ果ててしまいます。家でくつろいでいても、入院患者が急変すると呼び出され、気が気でありません。こんなつらい職場であっても、仕事を続けられるのは“弱った人、困った人の役に立ちたい”というプロ意識からであります。

医療機関の勤務環境改善には、給与などによる処遇改善が一番効果的です。医師、看護師、専門職等は、もっと高く評価されて良いと思います。事務職員の給与は、他の産業に比べ低い給与となっています。医療機関の経営が安定すれば、先ず事務職員の給与を見直したいと考えています。しかし、政府が行おうとしている財政健全化は、借金を次世代に残さないということより、当然のことではありますが、医療費を削減しての財政健全化には納得できません。安っぽい医療は危険が伴います。医療の現場は、安心・安全でなければなりません。危険を招く政策には絶対反対していかねばなりません。大阪府医師会と歩調を合わせ、当協会も抵抗していきたくと思います。

補助金と言えば、今までその大半は公的機関に投入されてきました。しかし今回、公私の分け隔てなく補助金を投入する方針です。大阪府の上家 和子部長が中心となって、国から大金をぶんどって来てくれました。「大阪府医療勤務環境改善支援センター事業」は、この貴重な基金の一部で行われます。民間に任せて良かったと言ってもらわねばなりません。我々は本日の研修会も全力を投入し行っていますが、その内容を各医療機関に持ち帰っていただき、成果を上げていただきたいと思ひます。補助金には Structure、Process が重要ですが、何よりも Outcome が一番大切です。センターを利用していただき、医療勤務環境改善に役立ててほしいと思ひます。よろしくお願ひします。

さて本日の講演は、東京海上日動火災保険株式会社、前・厚生労働省医政局、労働基準局、医療労働企画官の中野 孝浩先生から「医療機関の働きやすい環境づくりに向けた取り組みについて」～改正医療法の勤務環境改善システム～についてお話ししていただきます。また、医療機関の現場から、社会医療法人ペガサス 馬場記念病院から「中規模病院における医療勤務環境改善取組事例」であります。お土産をたくさん持って帰って、現場を喜ばせたいと思ひます。

それでは、本日の講演を準備していただいた講師の皆様様に御礼を申し述べ、開会の挨拶にさせていただきます。



開会挨拶 生野 弘道 私病協会会長



閉会挨拶 馬場 武彦 センター長

